

平成22年度第1回特別支援教育保護者研修報告

- 1 日時 平成22年9月13日(月) 10:00~11:30
- 2 場所 江別市市民会館 2階21号室
- 3 演題 「学齢期における指導のポイント」家庭でできる指導
- 4 講師 北海道南幌養護学校教諭 中嶋雅子 氏
- 5 参加者数 保護者70名、放課後児童会職員18名、教員10名、その他4名
合計102名

6 講演概要

LD(学習障害)は、知的発達に遅れはないが、読む・書く・計算の学習に必要な能力のいずれかが低い。場合によっては、重なっていることもある。読むことが苦手な子の中には字が二重に見えたり、表裏が反対に見えてしまうという子もいる。そのような状態でがんばっている子は「苦手なことに日々チャレンジしている子」と言っている。

ADHD(注意欠陥/多動性障がい)は、気が散りやすい(不注意)、じっとしていられない(多動性)、思いつくとすぐ行動する(衝動性)「元気印、エネルギー満載の子」

高機能自閉症やアスペルガーは、社会的関係を作る能力、コミュニケーション能力、想像力が乏しいが「自分流をつらぬく、こだわりの子」

(『LD・ADHD・高機能自閉症とは?』全国LDの会 より)

学校を訪問していると子どもたちの姿勢の悪さが目につく。その背景には、感覚統合の面も考えられる。感覚統合とは、感覚情報の適切な交通整理がされることで適応行動を作り出すという考え方である。感覚には、視覚、聴覚、触覚等の他に関節や筋肉からの情報に関わる「固有受容覚」や、バランスに関わる「前庭覚」がある。そのような感覚の面からのアプローチも必要ではないかと考えられる。

触られることが嫌い、歯みがきが嫌いなどの感覚防衛反応が見られる子もいる。そのような子には、背中に指で形を書いて、それを当てさせたり、ガムテープなどを貼った場所や袋に入っている物の形を当てさせたり等の遊びも有効ではないかと言われている。

ブランコやトランポリン、アスレチックやツイスターゲーム、ぞうきんがけ、ジャングルジム、手押し車など、身体を使う遊びも子どもたちにとって大変重要。不器用な子にも、手先を使わせるだけでなく、このような粗大運動が必要。

読み書きが苦手な子の中には、見え方に問題がある子も多いのではないかとされている。文章の中で指示された単語を見つけられない、文字や行をとばして読む、表やグラフが読めない、よく似た文字が見分けられないなどの例がある。眼球運動などのビジョント

レーニングによって改善される場合もある。ビー玉、おはじき、折り紙、ぬり絵、追いかっこ、なわとびびなどの昔からの遊びもビジョントレーニングにもなっている。昔の子どもたちは、たとえ感覚や見え方の面で弱さを持って生まれてきても、そのような遊びをする中で、困難さが軽減されてきたのかもしれない。

学習やしつけなどの土台になるものが自己肯定感（セルフエスティーム）である。自分の気持ちをわかってもらえる、認めてもらえる。自分のいいところも悪いところも全部受け入れて愛してくれる。このような安心感がまず大切です。

子どもと接する時に大切なこととして、脳科学の研究をしている平山諭先生が5つのスキル「セロトニン5」をあげています。①見つめる～優しい表情で ②ほほえむ～口角を上げて、優しい目で ③さわる～手をつなぐ、頭をなでる、肩に手を置く ④話しかける～受容的、共感的に「そうだね」「わかるよ」、希望や見通しを持てるように「大丈夫だよ」「あと3問できたら終わりだよ」 ⑤ほめる～「笑顔で、明るい声で、顔を見て」「さがしてでもほめる」「すかさずほめる」「(苦手なことは) やろうとしたらほめる」

成功体験も自尊感情、自己肯定感を高めることにつながる。学習が苦手な子達は、家庭での学習も必要だが、親が子どもに勉強を教えるのは難しい。お母さんと勉強するのは楽しいと思えることが大切。カードやカルタなどを使う方法もある。漢字、四字熟語、慣用句、都道府県、地図記号、歴史人物などの学習カルタをよく紹介している。授業で習う前にカルタで覚えておくことで、周囲の子どもたちから「すごい」と認められて、自己肯定感が高まることもある。

カードゲーム（トランプ、UNO）、ボードゲーム、オセロ、将棋などはコミュニケーション能力を育てる効果もある。ルールに従うこと、負けを認める気持ちも育てる。

個別の教育支援計画は、障害のある子どもを生涯にわたって支援することを目指している。これを作ったからといって、支援学級や養護学校に行くということではない。普通学級に在籍していても、必要があれば特別な支援を受けることができる。学校に相談して、作ってもらった方がよい。障害があることを分かっている普通学級に在籍させているので、特別な支援をしてもらってはいけないのではないかと遠慮している人もいるかもしれない。遠慮せずに相談するといい。市の巡回相談などに申し込むという方法もある。